

22. 子宮頸部癌の浸潤度とその⁶⁷Ga scintigram について

大阪医科大学 放射線科

岡橋 進 坂田 恒彦 井ノ崎光彦
赤木 弘昭

産婦人科

植木 実 土居荘之介 平井 寿
杉本 修

子宮頸部初期癌の進行度に対する診断はいまだもって内診による触診に限られ、わずかに IVP 及び Lymphographie が参考にされているにすぎない。しかし内診はあまりにも主観的であり、旁結合織の炎症、瘢痕、内膜症などの抵抗との鑑別がいかなる熟練者と言えども困難である。また Lymphographie も造影剤の入らない部位や小範囲の転移リンパ節等において読影上問題がある。かかることから我々は子宮頸部癌の浸潤度に対して⁶⁷Ga scintigram を施行し手術例と比較してその診断の有用性について検討した。

方法としては⁶⁷Ga-citrate 2mCi 静注48時間後に Scinticamera と minicomputer system を用いて測定記録し必要に応じてその scintigram 像及び ROI 曲線を得た。

その結果子宮頸癌では、対照に比し 0 期、I 期、II 期、III 期となるにつれてより明瞭な陽性画像が得られ、旁結合織の浸潤も客観的に診断が可能であることが示唆された。